

主題	下剤の廃止とそれに代わる生理的排便ケアの取り組みの効果について		
副題	～“水分摂取・歩行練習・下剤廃止・トイレでの座位排泄”でここまで変わる～		
生理的排便ケア		下剤廃止	
研究期間	7ヶ月	事業所	特別養護老人ホーム 山吹の里
発表者：上妻奈月(介護職員)		アドバイザー：山崎悦宏(主任介護職員)	
共同研究者：職員一同			
電 話	03-3981-5051	メール	yamabuki_jimu@ybb.ne.jp
FAX	03-3981-5061	URL	http://www.yamabukinosato.com/

今回発表の事業所やサービスの紹介	社会福祉法人フロンティアが経営する特養です。平成元年開設。入所者82名、ショートステイ8名。デイサービス・訪問介護・ケアプラン相談センターを併設。太田道灌ゆかりの山吹の牌・面影橋が近く交通の便が良いところにあります。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

- ・ 排泄ケアは定時の一斉介助であった
- ・ 排泄表が簡素で、量と時間のみを記録していた
- ・ 一日あたりの水分摂取量が 600～1000ml 程と少なかった
- ・ 離床時間が短く、活動量が少なかった
- ・ 常時オムツ使用の方は下剤による排便コントロールが多いためおむつかぶれによって生じる激しいかゆみや漏便行為がみられる。ご本人の負担になっていた。
- ・ 入浴日はその直前の定時排泄介助をしなくてよいという雰囲気があった
- ・ 御利用者一人ひとりの排便リズムに関係なく、排便が3日間みられなければ下剤を服用していただいていた

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

(目標)

「生理的排便を促す4大ケア(①水分量増加②活動量増加③下剤廃止④トイレ支援)」(以下4大ケア)をベースとした排泄ケアの実施

(期待する成果)

- ① 4大ケアの実施による排便リズムの規則化・意識レベル向上・便意の回復
- ② スキントラブルの予防・改善
- ③ おむつかぶれによる激しいかゆみ・漏便行為の減少
- ④ おむつ→パンツへの移行
- ⑤ ねたきり→離床時間の拡大
- ⑥ センター方式を生かした、個別のアセスメントに基づいたケアの実施による諸症状の改善
- ⑦ 職員が排泄ケアに関心を持つ
- ⑧ 利用者の安定した生活
- ⑨ 集団一括処遇から個別ケアへの移行

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 1 H24 年 1 月、外部研修に参加し、理論に基づいたおむつはずしを学ぶ
- 2 3 月、排泄ケアに関する情報収集・文献の購入 集めた資料を検討して具体的なケアの方法を決定する
- 3 4 月、すべての介護職員を対象とした勉強会を開催 段階的に進めてしていく事が決定され、ケアの対象者を8名とする
ケアについての疑問や不満について対応する
施設長・主治医・看護師・相談員・機能訓練指導員・など各セクションから協力を得る
主治医より下剤を抜く許可を得る
ご家族の同意を得る
アセスメント表・水分チェック表・排便チェック表の作成

- 4 5 月～7 月末、4 大ケアの実施スタート
 - ① 朝食後を中心としたトイレ支援
 - ② 下剤廃止。ただし、排便マイナス 5 日でラキソ使用(以前はマイナス 3 日または毎日であった)
 - ③ 1 日 1500ml 以上の水分摂取
 - ④ 日中の歩行練習・立位保持運動など、活動量増加

上記のケアについての実践データを毎日記録に残す

2 週間ごとのケアの見直し

《4. 取り組みの結果と考察》

- ・ 8 名中 6 名が下剤を使用せずにトイレでの排便に成功した
- ・ 実施前はマイナス 3 日目で下剤服用し水様便や泥状便→ケア実施から 1 週間で、ほぼ毎日または 2～4 日で軟便や普通便がでるようになった
- ・ おむつ→パンツへの移行
- ・ おむつかぶれの改善、かゆみの軽減
- ・ 歩行能力が徐々に回復

《5. まとめ、結論》

人間の生理的特徴を活かしたケアを理解し継続して実践していくことで、ご利用者は便意をしっかりと感じトイレの中で良い形の便を排出することができる。今回の取り組みで効果がなかなか現れなかった 2 名のご利用者は他の 6 名に比べ、水分摂取や活動量の増加が難しかった。ご利用者が最も快適な生活を送られるように、どのように関わりをもてば良いのか他の職員と話し合い、検討を重ねていく中で、その方に一番あったケアを見つけていくことが今後の課題である。また、対象の 8 名以外にも支援を拡大していく

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした

《7. 参考文献》

- ・ 竹内孝仁 藤尾祐子(2011)
おむつを外し尿失禁を改善する 筒井書房
- ・ 認知症介護研究・研修東京センター
センター方式の使い方・活かし方 中央法規
- ・ 田辺毅彦、他(2010)
高齢者施設カイゼンの要点 日総研

《8. 提案と発信》

知識と技術をもつ専門性のあるケアは、職員に「やりがい」「喜び」をもたらし、その「やりがい」は「仕事の面白さ」に通じる。そして根拠のあるケアを行うことで介護職の専門性をよりつきつめていくことができる。

ご利用者は誰でも自分の生活をよりよい状態で送りたいと思っている。その願いを実現させるために、今後もさらにこの取り組みを発展させたい。

【メモ欄】